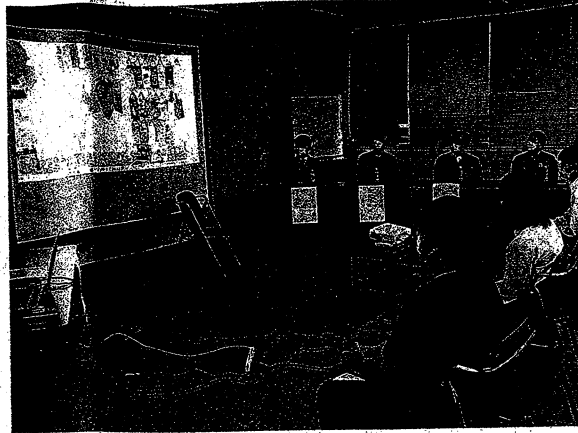


「乙訓ミニ企業交流会」で各社の説明映像を見る
参加者ら(向日市上植野町・乙訓保健所)



障害者ら就労へ交流会

中小企業経営者と質疑応答

向日

障害者や引きこもりの人たちの就労準備に向けた「乙訓ミニ企業交流会」が、向日市上植野町の乙訓保健所で開かれた。中小企業の経営者らが業務内容や従業員に求める心構えなどを説明。「働く上で一番大切な事は何ですか」といった参加者の質問に答えていた。乙訓障がい者就労支援ネットワーク一たけのこの主催。障害者らが就職面接で過度に緊張してしまうケースがあるといい、まずは企業を身近に感じてもらう目的で昨年に始められた。2回目の今回、約20人が参加した。会場では、製造卸売業、印刷デザイン業、ガスメンテナンス業の経営者が仕事の魅力や苦勞、期待する社会人像などを説明。3グループを巡って参加者と和やかに語り合った。同ネットワークの担当者は「経営者にとっ

ても障害者雇用を具体的にイメージできる場になれば」と期待していた。(吉田恭彦)

京都新聞

2022.10.19

京都新聞

R4.10.6

京経済

第1000号

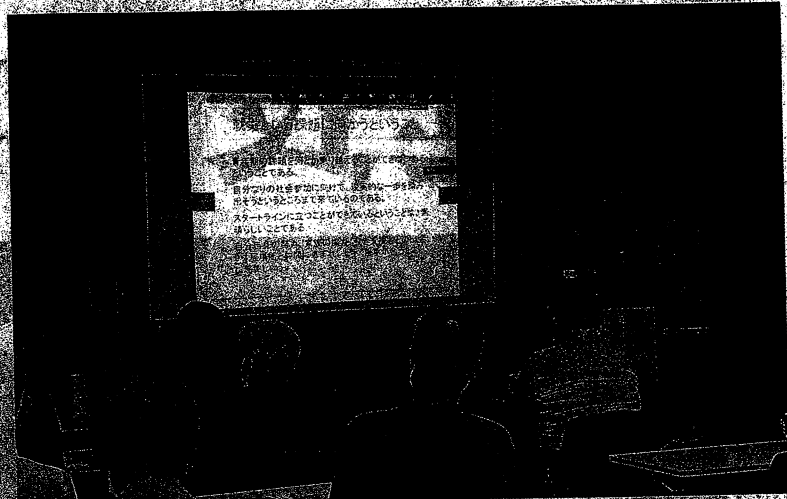
2022年(令和4年)10月6日 木曜日

11

障害者の就労支援考えよう

障害のある人の就労支援を考えた。参加者約150人の人働きた。必要な支援を、京都市下京区の京が精神障害や発達障害について理解を深め

下京で講演会 希望者ら個人参加



精神障害や発達障害がある人の就労について考えた果会
(京都市下京区・京都経済センター)

正しい理解とサポート重要性強調

就労支援センター「夢ステップむらまち」(同市中京区)の主催で、就労希望者や家族、支援機関、企業の雇用担当者が参加した。京都少年鑑別所に勤める精神科医の定本ゆきこさんが講演。定本さんは幼児期の自律性や学童期の生産性などを成人までに獲得すべき発達課題を挙げ、課題を乗り越えにくい精神障害や発達障害への正しい理解とサポートの重要性を強調した。また、職場に症状や特性を理解してもらおうと、職場内外の支援者に定期的に相談できる体制づくりの大切さも語った。

(片村有希)